

2023年度1年生
学習のとびら



亀山市立中部中学校

新しい時代を生き抜くために、あなたたちには、自分のよさや可能性を認識し、失敗を恐れずに夢や可能性に挑むためのたくさんの力が必要になります。

例えば、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の「確かな学力」、命を大切にする心や他者への思いやり等の「豊かな心」、心身の健康や体力等の「健やかな身体」などです。

中部中学校の3年間の学習を通して、これらの力をつけ、持続可能な社会の実現と未来の自分を想定し、自己実現を目指してどう生きるかを考えてください。そのために、この「学習のとりざら」を使って日々の学習をすすめていきましょう。

学習の心構え

私たちは自分をよりよく育てるために、自分自身の心構えをしっかりと持ちましょう。「学習のポイント10」は、その鍵となるものですから、これらのことに気をつけて生活してみてください。

「学習のポイント10」

①身体の状態を完璧に！

規則正しい睡眠と毎日の朝ごはんを大切に生活しましょう。

「早寝早起き朝ごはん」は、心身の健康や確かな学力につながります。

②計画をたてて進んで学習を！

主体的に計画し、進んで学習する習慣を身につけましょう。

③粘り強く、自らの学習の調整を！

知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることを目指して、自ら学びを調整しながら、粘り強く学びましょう。

④授業を大切に！

「めあて」をもって学び、「ふり返し」を大切にしましょう。

一つひとつの授業に全力を出し、集中して取り組みましょう。



⑤復習と予習を！

その日に学習したことはその日のうちに復習を。予習も必要があればしましょう。

⑥かたよらない学習を！

得意な教科をいっそう伸ばし、不得意な教科は人一倍努力しましょう。

自分にあった学習法を工夫し、みつけだしましょう。

⑦学びを深めよう！

疑問や課題に思ったことは、どんどん自ら調べていきましょう。

「ひと」「もの」「こと」とかかわったり、つながったりしながら、たくさんの対話や協働を通して、学びを深めていきましょう。

⑧図書館の利用を！

読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠かせないものです。たくさん読書をしましょう。

⑨体力づくりを！

体力は学習のもとでもあります。困難に打ち勝つ力をつくり上げましょう。

⑩たゆまぬ努力を！

粘り強く取り組み、積み重ねたことは、大きな力となります。

授業への取り組み方

授業では、各教科の基礎的なことから順序よく学習します。同じ授業は二度と繰り返されません。かけがえのない貴重な時間なのです。1時間1時間の授業に真剣勝負で臨むことが大切です。授業に真剣に取り組む、意欲的に発表しあう・・・そこから実力がのびてくるのです。さあ、授業に全力で臨みましょう。

1. 前日は ～準備をしっかりと～

忘れ物があつては、授業にしっかりと参加できません。宿題や授業の内容を確認し、必要なものを準備しましょう。

2. 授業中は ～心を集中して～

姿勢を正し、全神経を学習に集中します。「あとで」という考えは危険です。先生の話や友だちの発言・質問をしっかりと聞き、メモをとったり、その場で覚えたりして、問題を解決しましょう。また、作業や実技をとまなう教科は、先生の指示をよく聞き、安全に注意して活動しましょう。

3. 発言は ～積極的に～

何を（内容）、何によって（根拠）、どのように（方法）などを考え、わかりやすく話します。聞き手は相手を尊重し、要点をとらえるようにしましょう。

4. 質問は ～ためらわずに～

わかったこと、わからないことを区別することが大切です。疑問を持つことは進歩の証拠です。わからないことをそのままにしておくのは絶対に禁物です。ためらわずに質問しましょう。

5. ノートは ～手ぎわよく～

板書をそのまま写すのではなく、頭の中でよく整理しながらノートをとります。また、いつでもメモをする習慣をつけましょう。よくまちがえる所、わかりにくい所、重要な所には記号やアンダーライン・色分けを使うと、あとで復習する際に役立ちます。

授業は次の5項目を守って、真剣に受けよう

1. チャイムが鳴る前に、教室に入り、授業の準備をしよう。
2. 身のまわりを整頓し、必要な荷物は持ち帰ろう。
3. 「気をつけ、礼」で気持ちを切り換えよう。
4. 授業に集中し、積極的に取り組もう。
5. 教科係からの連絡をよく聞き、忘れ物をしないようにしよう。

中部中生徒会

（生徒会が中心になり、よりよい学校生活にしていけるために話し合って決めたものです。）

休憩時間の過ごし方

中学校での休憩時間は、小学校とはちがい、次の授業を受ける準備やからだを休めるためのものです。特に、休憩時間の終わりのチャイムは、次の授業のスタートの合図です。休憩時間内に下記の1～3のことを終え、自分の席に着き、チャイムと同時に授業が始められるように、静かに自習をしましょう。

1. 次の授業の準備をする。

- (1) 次の授業に必要な教科書、ノート、資料集などを出しておきます。
- (2) 特別教室への移動があるときは、(1)ができしだい移動します。
- (3) 体育などで更衣が必要なときは、手早く体操服に着替えて移動します。

2. からだを休める。

- (1) 休憩時間は遊ぶ時間ではありません。頭とからだを休め、気持ちをリフレッシュして次の授業に備えます。
- (2) 必要であれば、トイレに行っておきます。



3. 係としての仕事をする。

- (1) 係は、先生の指示により、授業のための準備をしたり、クラス全員に連絡を伝えます。
- (2) 係は、授業後、または午前中の休憩時間か昼休みの時間を使って、教科の先生に翌日の学習内容などを聞きに行き、帰りの会が始まるまでに、予定黒板に記入しておきます。
- (3) 係は、黒板をきれいに消しておきます。黒板消しもクリーナーできれいにしておきましょう。



宿題について



宿題は授業での学習を家庭で補う必要があるときに与えられます。復習的な内容の宿題もあれば、予習的な内容のものもありますが、いずれも「最低でも、これだけはやっておかないと困る」というものが宿題として与えられるのですから、必ずやるようにしましょう。

復習について

人の頭というのは、授業を受けているときには「なるほど」と納得していても、時間がたつにつれて、だんだん「どうしてだったかなあ」と忘れていくものです。復習とは「なるほど」と納得しているうちに確実に頭の中にいれるために行う勉強です。だからこそ、「その日のうちに」やるのが大切なのです。各教科ごとに、くわしい復習のしかたについては、あとに書かれていますが、一般的な心構えは次のようなことです。

1. 学校から帰ったらすぐにやる。

これを必ず習慣にしよう。早ければ早いほど、授業の中身がはっきりと頭に残っていて、勉強時間も短くて済みます。

2. 教科書・ノート中心にする。

授業を思い出しながら、教科書やノートを読み返したり、ノートをもう一度整理したりしましょう。

3. 練習問題で確かめる。

学校で使っているワークブックやプリントなどを活用しましょう。関係ある問題をやってみて、本当に理解できているかどうか確かめましょう。また、余裕があれば、発展的な問題で力だめしをしてみましょう。わからなかったところは、早めに、質問するようにしましょう。



予習について

次の授業の準備、つまり、予習をしてから授業を受けるのと、何もしないままに授業を受けるのでは大きな違いがあります。例えば、予習をしてあれば、自分がわからないことはなにか、ということがわかりますから、それについて、なんとかこの授業でわかるようにしてやろうという意欲がわき、授業に集中できます。また、その授業を受けるうえでの基礎になる、すでに習ったことがらについて、予習で確認してあれば、自信を持って授業に臨むことができます。このように、授業を楽しく受けるためには予習を欠かすことのできないものなのです。予習のしかたについても、一般的なものを次にあげておきます。

1. 教科書に目を通す。次の授業は何をするのか知っておきましょう。

2. 自分で考え、疑問点を出す。

予習するなかで、わからない所や疑問に思った所を見つけておけば、授業のなかで、その疑問を解決してやろうという気持ちになり、より授業に集中できるようになります。また、国語の語句の意味調べや英語の本文を写すなどのちょっとした工夫をすることで、より授業がわかりやすくなるでしょう。



3. 苦手な教科には、特に力を入れる。

予習をきちんとして、自信を持って授業に臨めば、だんだん好きに、やがては得意になるでしょう。

提出物について

宿題、ノート、ワークブックなど、提出しなければならない物は、期限を守って、忘れずに提出しよう。

※ 宿題ではありませんが、各教科で日頃家庭学習として取り組んでほしいことを挙げました。
家庭学習の参考にして下さい。

定期テストについて

年間5回の定期テストを実施しています。みんなの理解を確認するためのテストです。

<テスト期間中の過ごし方>

1. 無理のない計画を立てて、勉強しよう。

時間割や範囲の発表は、テスト実施日の2週間前に行われます。発表されたら、計画を立て、どの教科も同じように勉強する必要があります。「この教科は嫌いだから、後回し。」というのではいけません。逆に、嫌いな教科ほど時間をかけて復習する必要があります。また、無理のない計画を立てるように心がけてください。時間を短かく区切りすぎて、ギュウギュウ詰めにしてしまうのはいけません。少し余裕があるほうがいいでしょう。

2. 目標をもとう。

自分に合った目標を立ててみましょう。例えば、「国語は〇〇点……」というように。そうすることで「やる気」が出てくるはずです。

3. 計画を実行に移そう。

テスト期間中は、放課後の部活動が停止されます。これは小学校とは違い、各教科のテスト範囲が広く、十分な復習をしなければならないからです。テスト期間中は、友だちと遊んだりせず、自宅で復習に力を入れましょう。また、計画を実行していく上で、最大の妨げになるのが「スマホ」や「ネット」なのです。テスト期間中は我慢するようにしましょう。

4. 集中して勉強し、睡眠をたっぷりと取ろう。

深夜まで勉強するのか、テスト当日、よく眠そうな顔をして登校してくる生徒を見かけます。夜遅くまで勉強することも、時には大切ですが、テスト期間中は部活動停止なのですから、帰宅後すぐに勉強に取りかかり、睡眠時間を8時間確保するようにしましょう。テストは、8:50から始まります。夜遅くまで起きていると、大切なテストの時に頭が働きません。



5. 次へつなげよう。

長かったテスト期間が終わり、ほっと一息ですね。しばらくすると、採点されたテストが返されます。返されたテストの点数がよかった、悪かっただけで済ましてはいけません。もう一度間違った箇所を中心にやり直してみましょう。そうすることが実力アップにつながります。くれぐれもやり放して終わらないようにしましょう。

<計画の例>

テスト範囲やテストの時間割は2週間前に発表されます。

		日 程				学習する教科名			予備時間		
基礎整理 問題練習	2週間前	計画をこの日までに立てる。				国	英	理			
	...	ここでは、教科名のための計画ですが、各教科の内容も考えて、計画を立てましょう。				数	社	国			
	...					...	...	...			
	5日前					社	国	英			
	4日前					理	数	社			
	3日前					国	英	理			
	2日前	土曜、日曜を使って計画の遅れを調整する。学習時間を平日よりも多くとる。				数	社	遅れている教科			
総仕上げ	前日	(テスト前日)				1日目の教科の総仕上げを行う					
	第1日	国	英	理			2日目の教科の総仕上げを行う				
	第2日	数	社	(学)							

1. 「基礎整理」の期間

いきなり、テスト勉強をしようとしても無理です。まず、各教科の基本的な事項を整理しておきましょう。例えば、国語では、漢字や熟語を繰り返し覚えるためのカードを作り、授業中に書いたノートを整理しておきます。また、基本的なことから整理して繰り返し覚えます。つまり、「問題学習」や「総仕上げ」を行うための準備期間です。

2. 「問題学習」の期間

「基礎整理」で覚えた内容を、実際に問題を解いて確認します。問題を解いて、忘れていた事項などを、もう一度チェックしておきましょう。

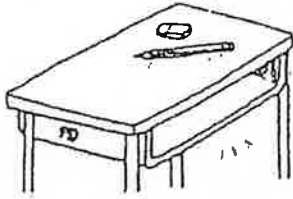
3. 「総仕上げ」の期間

今まで復習したことから、もう一度確認します。だいたい大丈夫ではいけません。自信をもって、テストを受けられるようにしておきましょう。

テストの受け方

次にあげる注意を守り、厳正にテストを受けよう。

机の中には何もいれてはいけません。



筆記用具のほか、不必要なものはすべて、バックにしまいなさい。

先生が問題を配り始めた時から、テストは始まっています。



まわりをキョロキョロしたり、友達と勝手な話をしたりしてはいけません。静かに問題を受け取り、枚数を確認します。

何より先に、組、番号、名前を書こう。



「始め」の合図で答えを書き始めますが、何より先に、組・番号・名前を必ず記入しましょう。それらを書き忘れたら答案は0点かも……

品物の貸し借りは厳禁です。



必要なものを忘れてきても、そのまま受験するのです。あるいは、先生の指示にしたがう。

できる問題から、やり始めよう。



あわててすぐに答えを書き始めず、まず全体の問題に目を通して、できるところから始める。どうしてもわからない時には先に進みます。

見直しもテストのうち。



答えを全部書いてしまっても、よく見直しをして、間違いがないかどうか十分確かめる。この時も声を出したり、キョロキョロしてはいけません。

出席番号順に解答用紙を集める。



テスト終了のチャイムが鳴ったら、すぐエンピツを置き、列の最後の人番号順に、きちんとそろえて集めます。

休み時間は最後のまとめ。



休み時間中もあばれたり、騒いだりせず、まずトイレをすませ、次のテストの準備をして、静かに過ごしましょう。

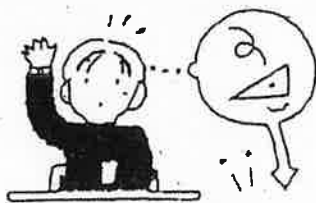
問題用紙は大切に。



答案が返される時、説明がありますから、きちんと正解を書き、大切に保存しておきましょう。

★こんな時、どうする？

何かを落としたり、必要な道具を出し忘れて、バックから出したい時。



黙って手を挙げ、監督の先生の指示を受ける。

トイレに行きたくなったり、気分が悪くなったら。



黙って手を挙げ、監督の先生にきてもらい許可を得てから静かに席を立つ。

友達の不正行為を見てしまったら。



そんなことはないと思うが、あとでそつと先生に知らせてください。

学習のすすめかた（第1学年 国語）

☆国語の学習でめざすこと

- 1、自分の考えを大切に、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに、話し言葉を大切にしようとする態度を育てる。
- 2、必要な材料を基にして自分の考えをまとめ、的確に書き表す能力を高めるとともに、進んで書き表そうとする態度を育てる。
- 3、様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識及び技能	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	テスト、書写の筆遣いやパランス、レポートの書き方、話し合い活動・討論、主張の仕方
②思考力・判断力・表現力等	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	テスト、書写の作品、レポートの内容、発表やレポートによる話し合いや討論の内容、作品
③主体的に学習に取り組む態度	・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	テスト、書写、レポート、話し合い活動・討論、主張等への取り組み方

☆学習を進めるにあたって

使用教科	教科書 現代の国語Ⅰ（三省堂）、中学校書写一・二・三年（光村図書） 副教材 国語のワーク、漢字のワーク、文法のワーク 資料集 資料集	持ち物 教科書・ノート・国語のワーク・漢字のワーク 国語便覧・文法のワーク・習字道具 国語辞典
学習の進め方	《学校では》 ・50分の授業に集中して取り組み、人の意見をしっかり聞き、自分の意見を進んで発表しよう。 ・板書されたこと、気づいたことなどノートに工夫してまとめておこう。 ・図書館を利用するとともに、朝の読書に落ち着いて取り組もう。 《家庭では》 ・新しい作品に入るときは、予習として教科書を音読しよう。 ・わからない漢字や語句は、こまめに国語辞典や漢和辞典で調べよう。 ・漢字ノートを作るなどして、覚えるまで何度も書いて練習しよう。 ・本や新聞などを積極的に読もう。 ・ワークやノートを使ってその日の復習をしよう。 ・連絡帳にその日の出来事や思ったこと、感じたことを詳しく書こう。 《定期テストでは》 ・教科書やノートを見直しワークや漢字学習を利用して、授業の復習をしよう。 ・テスト範囲の漢字の読み書きはしっかり練習しよう。 ・提出物があれば、期限内にやって提出しよう。 ・テスト返却後、間違えたところを復習しよう。	
学習上の注意	・チャイムが鳴るまでに授業の準備を終え、漢字の練習をして待つ。 ・授業の準備物を忘れない。 ・宿題は期限内に終える。特に作文の宿題は早めに終え、推敲する。 ・漢字テストで間違えた漢字やわからなかった漢字を正しく書けるようにする。	

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
一 学 期	4 朝のリレー 竜	1 詩の構成や表現の効果について考えながら、情景を想像して音読する。 2 詩を読んで感じたり想像したりしたことを共有する。 1 本文を通読し、場面ごとの内容を捉える。 2 描写をもとに三太郎の心情の変化を捉える。 3 擬態語などの表現の工夫に着目して読み、表現の効果について考える。 4 物語における表現の効果について考えを深める。	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。 ・進んで自分の考えを確かなものにし、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。 ・「読むこと」において、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。 ・進んで心情の変化などを捉え、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。
	5 グループディスカッション 話題や展開にそって話し合いをつなげる	1 話題や展開にそって話し合いをつなげるための方法を理解する。 2 話し合いをつなげるための方法を、グループディスカッションで活用する。 3 記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、自分の考えをまとめる。	・「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめている。 ・積極的に話題や展開を捉え、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
	◆書写 人権習字	・「人権意識」「思いやりの心」	・点画の種類を確かめ、漢字の筆使いに注意して書いている。 ・進んで漢字の筆使いに注意し、学習課題に沿って書こうとしている。
	言葉発見① 音声のしくみとはたらき	1 日本語の音節や五十音図のしくみなどを理解し、音声のしくみとはたらきについて考える。 2 「五十音図とローマ字」を見て、母音と子音のしくみを確認する。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。 4 日本語と英語の音節の違いについて理解を深める。	・音声のはたらきやしくみについて、理解を深めている。 (1) ア ・進んで音声のはたらきやしくみについて理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	漢字を身につけよう①	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	・常用漢字(300字～400字)を読んでいる。 ・進んで常用漢字について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	6 読み方を学ぼう① 説明文の基本構造 ペンギンの防寒着 クジラの飲み水	・説明文の基本構造を理解する。 1 文章全体の構成と要旨を捉える。 2 表現の工夫を探して、その効果を捉える。 3 二つの文章を読み比べて、考えたことを発表する。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ・進んで文章の構成や表現の効果捉え、学習課題にそって考えを報告しようとしている。
	漢字のしくみ 活字と手書き文字・画数・筆順	1 漢字の字体、書体の違いを理解する。 2 漢字の画数・筆順について理解する。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。	・常用漢字(300字～400字)を読んでいる。 ・進んで常用漢字について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	レポート 調べたことを整理してわかりやすくまとめる	1 身のまわりのものやできごとから課題を決める。 2 情報を集めて整理し、伝えたい内容を明確にする。 3 レポートの構成を理解し、表などを効果的に用いて書く。	・「書くこと」において、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 ・粘り強く集めた材料を整理し、学習の見通しをもってレポートを書こうとしている。
	言葉発見② 話し言葉と書き言葉	1 話し言葉と書き言葉の特徴について考える。 2 イントネーション・プロミネンスについて理解する。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。	・音声のはたらきやしくみについて、理解を深めている。 ・進んで音声のはたらきやしくみについて理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	漢字を身につけよう②	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	・常用漢字(300字～400字)を読んでいる。 ・進んで常用漢字について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。

二 学 期	◆書写 原稿用紙の書き方	1原稿用紙の書き方と留意点を理解する。 2目的や相手に応じて書式を選び、書写の知識・技能を生活に生かすという意識をもって書く。	・目的や相手に応じて書式を選び、書写の知識を生かして書いている。 ・積極的に書写で学んだ知識・技能を振り返り、今までの学習を生かして書こうとしている。
	7 空中ブランコ乗りのキキ	1 登場人物の相互関係を捉える。 2 描写をもとに、場面の展開や心情の変化を捉える。 3 本文中の描写が表すものの意味について考える。 4 登場人物の判断や行動について、自分の考えを確かなものにする。	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。 ・進んで自分の考えを確かなものにし、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。
	文法の窓1	1 「文法の窓1」で言葉の単位・文節の関係について考える。 2 「文法のまとめ」「1言葉の単位」で、言葉のまとまりについて理解する。 3 「文法のまとめ」「2文節の関係・連文節文の成分」で、文の基本的なしくみについて理解する。 4 「確認しよう1」の課題に取り組む。	・単語の類別について理解している。 ・進んで単語の類別について理解し、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	字のない葉書	1 場面と場面、場面と描写などを結びつけて、内容を解釈する。 2 行動の描写をもとに、人物像や人物の心情の変化を捉える。 3 「私」の父に対する思いについて考える。	・「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。 ・進んで心情の変化などについて描写をもとに捉え、学習課題にそって考えを記録しようとしている。
	漢字のしくみ2	1 漢字の部首と意味の関係について理解する。 2 漢字の成り立ちについて理解する。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。	・常用漢字(300字～400字)を読んでいる。 ・進んで常用漢字について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	◆書写 目標を書こう	1教科書の例を見て、目標の書き方を理解する。 2目標を考え、読みやすさを意識して、用紙・筆記用具・文字の大きさや配列を考える。 3これまでに学習したことを生かし、目標を書く。	・今までに学習した知識・技能を生かして書いている。 ・進んで習得した知識・技能を振り返り、今までの学習を生かして目標を書こうとしている。
	随筆 体験に向き合い意味づける	1 日常生活の体験の中から題材を決める。 2 表現したいことの中心を明確にしまとめる。 3 交流をとおして、表現のよい点や改善点を見つける。	・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決めている。 ・粘り強く日常生活の中から題材を決め、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。
	私の読書体験 本を読むことのおもしろさ	1 教材文を読み、感想を交流する。 2 本を選んで読み、自分の考えを広げたり深めたりする。	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。 ・進んで自分の考えを確かなものにし、学習したことを生かして学校図書館などを利用し、多様な情報を得ようとしている。
	漢字を身につけよう②	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	・常用漢字(300字～400字)を読んでいる。 ・進んで常用漢字について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	9 玄関扉 読み方を学ぼう④ 三角ロジック	1 文章の構成と要旨を捉える。 2 「内開き」についての筆者の考えを整理する。	・「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握している。 ・進んで事実と意見との関係などについて叙述をもとに捉え、学習課題にそって考えをまとめようとしている。
10	言葉発見③ 接続する語句・指示する語句	1 接続する語句について理解する。 2 指示する語句について理解する。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。	・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。 ・進んで指示する語句と接続する語句の役割について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	漢字を身につけよう④	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と
	月を思う心 竹取物語	1 月と人々との関わりについて考える。	

古文の読み方 古典の仮名遣い	2 登場人物の相互関係や心情の変化について、描写をもとに捉える。 3 古典の世界を感じ取り、現代と比べて考えを広げる。	意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。 ・積極的に構成を考え、学習の見通しをもって話そうとしている。 ・常用漢字（300字～400字）を読んでいる。 ・進んで常用漢字について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
表現プラザ 変わり身の上話	1 目的や意図に応じて、身のまわりから題材を取り上げて書く。 2 交流をとおして題材の特徴の捉え方や発想のおもしろさ、表現の工夫などを見つける。	・「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。 ・進んで登場人物の相互関係や心情の変化を描写をもとに捉え、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。
故事成語——矛盾 漢文の読み方 訓読の仕方	1 訓読の仕方を知り、漢文調のリズムを意識して音読する。 2 「矛盾」の話の展開を捉え、他の故事成語について調べる。 3 故事成語の優れた点やおもしろさ、表現の効果について考える。	・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などをふまえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 ・粘り強く文章のよい点や改善点を見だし、学習の見通しをもって短い話を書こうとしている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ・進んで文章の構成や表現の効果捉え、学習課題にそって考えを記録しようとしている。
11 漢字のしくみ3 漢字の音と訓	1 漢字の音読みと訓読みについて理解する。 2 同音異字と同訓異字について理解する。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。	・常用漢字（300字～400字）を読んでいる。 ・進んで常用漢字について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
漢字を身につけよう⑤	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	・常用漢字（300字～400字）を読んでいる。 ・進んで常用漢字について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
複数の情報に関連づけて 考えをまとめる	1 資料A「防災に関するデータ」のグラフを読み取る。 2 グラフから読み取ったことをもとに、課題について話し合う。	・「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめている。 ・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。
防災に関するデータ	1 資料B「『みんなでいるから大丈夫』の怖さ」を読む。 2 筆者の意見を捉える。	・積極的に情報と情報との関係に注意して内容を解釈し、学習の見通しをもって話し合い、考えをまとめようとしている。
「みんなでいるから大丈夫」 の怖さ	1 資料Aと資料Bに関連づける。 2 課題について、自分の考えをまとめる。	
行事案内リーフレット 必要な情報を わかりやすく伝える	1 グループで話し合っ、考えを深める。 1 リーフレットに掲載する内容を決める。 2 構成を考える。 3 推敲する。	・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。 ・粘り強く表記や語句の用法を確かめ、学習の見通しをもって行事案内リーフレットを書こうとしている。
12 文法の窓2 文法のまとめ 単語の類別・品詞	1 「文法の窓2」で単語の類別や品詞について考える。 2 「文法のまとめ」「3単語の類別・品詞」で、言葉のまとまりについて理解する。 3 「文法のまとめ」「4名詞」「5副詞・連体詞・接続詞・感動詞」で、各品詞の特徴を理解する。 4 「確認しよう2」の課題に取り組む。	・単語の類別について理解している。 ・進んで単語の類別について理解し、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
漢字を身につけよう⑥	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ	・常用漢字（300字～400字）を読んでいる。 ・進んで常用漢字について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
それだけでいい 読み方を学ぼう⑤ 詩の表現技法	1 詩の中の言葉を的確に捉えて、内容を理解する。 2 表現に着目しながら読み、その特徴と効果について自分の考えをもつ。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ・進んで文章の構成や展開、表現の効果捉え、学習課題にそって考えたことを伝え合おうとしている。

三 学 期	1	言葉発見④ 比喩・倒置・反復・対句・ 体言止め	1 比喩（直喩・隠喩・擬人法）について理解する。 2 倒置・反復・対句・体言止めについて理解する。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。	・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 ・進んで表現の技法を使い、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
		詩 思いや発見を リズムに乗せる	1 日常生活の中から題材を決め、集めた題材を整理して、伝えたいことをしぼり込む。 2 自分の感じたことが効果的に伝わるように、表現を工夫する。 3 推敲して作品全体を整える。 4 交流をとおして、表現のよい点や改善点を見つける。	・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。 ・粘り強く叙述の仕方などを確かめ、学習の見通しをもって詩を書こうとしている。
		トロッコ 読み方を学ぼう⑥ 情景描写	1 主人公のトロッコに対する思いを捉える。 2 人物の言動に着目して、心情の変化を捉える。 3 情景描写と場面の展開を捉え、表現の効果について考える。 4 最後の一文に描かれた情景から、作品を読み深める。	・「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結びつけて内容を解釈している。 ・進んで場面と描写などを結びつけて内容を解釈し、学習課題にそって考えたことを記録しようとしている。
	2	読書活動 ブッククラブ	1 本を読み、紹介したい内容を考える。 2 グループで意見を交流し、読んだ本について自分の考えをまとめる。	・「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などをふまえて、自分の考えをまとめている。 ・積極的に自分の考えをまとめ、学習の見通しをもって紹介したいことを話したり聞いたりしようとしている。
		漢字を身につけよう⑦	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	・常用漢字（300字～400字）を読んでいる。 ・進んで常用漢字について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
		◆書写 年賀状・書初め	1教科書ではがきの表の書き方を確かめる。 2伝えたい内容に合った筆記用具を選び、書写の知識・技能を生活に生かすという意識をもって、年賀状を書く。 3教科書を見て、各学年のその段階までに学習したことを振り返り、その生かし方を考えて、毛筆で書く。	・漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を書いている。
3	2	意味と意図 ——コミュニケーションを 考える 読み方を学ぼう⑦ 要約	1 文章に示された事例について、比較して捉える。 2 必要な情報に着目して文章を要約し、内容を捉える。 3 文章を読んで理解したことをもとに自分の考えを深める。	・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 ・進んで必要な情報に着目して要約し、学習課題にそって理解したことを文章にまとめようとしている。
		言葉発見⑤ 方言と共通語	1 地域による言葉の違いがあることを理解する。 2 方言のアクセントの特徴について考える。 3 方言と共通語の使い分けについて考える。 4 「確かめよう」の課題に取り組む。	・共通語と方言の果たす役割について理解している。 ・進んで共通語と方言の果たす役割について理解し、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	3	意見文 根拠を明確にして 考えを述べる	1 交流をとおして意見をまとめる。 2 意見の根拠を明確にして意見文を書く。 3 読む人に内容が伝わりやすいタイトルを考える。 4 書いた意見文を読み合い、意見や感想を交流する。	・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。（Ｂイ） ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 ・粘り強く根拠が明確になるよう工夫し、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。
		漢字を身につけよう⑧	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	・常用漢字（300字～400字）を読んでいる。 ・進んで常用漢字について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
		少年の日の思い出 読み方を学ぼう⑧ 語り手・視点	1 過去を回想する構成と登場人物の相互関係を捉える。 2 登場人物の人物像を、描写をもとに捉える。 3 登場人物の心情の変化を、描写をもとに捉える。 4 語り手の視点を捉え、表現の効果について考える。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ・進んで文章の構成や表現の効果捉え、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。

学習のすすめかた(第1学年 社会 地理&歴史)

○社会科の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民として資質・能力の基礎を身につける。

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識・技能	・社会的事象に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。 ・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	授業観察 小テスト 定期テスト
②思考・判断・表現	・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会的に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	授業観察 振り返り ノート 定期テスト
③主体的に学習に取り組む態度	・社会的事象について理解し、正しい知識を身に付けている。 ・社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を主体的に解決しようとしている。	授業観察 ノート 課題提出 定期テスト

☆学習をすすめるにあたって

使用教材	教科書:「中学生の地理」 地図帳:「中学校社会科地図」 教科書:「新しい社会 歴史」 副教材:ワーク	持ち物	・教科書 ・地図帳 ・ノート
学習の進め方	<<学校では>> ・先生の話や説明等をしっかり聞こう。 ・資料(写真、地図、グラフなど)を読み取り、わかることを積極的に発表しよう。 ・課題について考え、意見交換しよう。 ・授業のふりかえりを5行以上でまとめよう。 <<家庭では>> ・学校で学んだことを、自分の身近なくらしと関連付けよう。 ・自主的に復習を行い、ワークにも取り組もう。授業で配布されたプリント等にも取り組もう。 ・世の中の動きや出来事に関心を持とう。(毎日、新聞の一面を読む、ニュースを見るなど) <<定期テストでは>> ・計画を立ててテスト勉強に取り組もう。 ・教科書にある、グラフ・図表等の資料から様々な情報を読み取ろう。 ・課題について多面的・多角的に考察しよう。 ・教科書にある語句を覚えよう。		
学習上の注意	・忘れ物をせず、授業の準備を整え、ベル席を守る。 ・課題をつかみ、解決に向け、自ら考える。自分の考えを述べ、仲間の考えを聴くことで、さらに自分の考えを深める。 ・黒板に書かれた内容はもらさずノートにとる。 ・気づいたことや大切なと思ったことも、ノートに記入する。 ・ふりかえりを5行以上書く。 ・提出物は期限を守る。		

☆年間計画

時期		単 元 名	おもな学習内容	評 価 観 点
一 学 期	4	第1章 世界の姿	・私たちの住む地球を眺めて ・いろいろな国の国名と位置 ・緯度と経度	・緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、世界の地域構成を理解している。 ・六大陸三大洋、各州の分布の位置関係を表すことができる。
		第2章 日本の姿	・地球儀と世界地図の違い ・世界の中での日本の位置 ・時差、日本の領域	・様々な国の面積、形、人口、国旗を理解し、世界の地域構成を多面的・多角的に考察している。
	5	第1章 人々の生活と環境	・暑い地域、乾燥した地域、温暖な地域、寒い地域、高地の暮らし ・世界各地の衣食住とその変化 ・人々の生活と宗教の関わり	・世界地図の活用法について考察している。 ・世界各地の人々の生活と環境の多様性について、自然的条件や社会的条件と関連づけて考察できる。 ・よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。
	6	第2章 世界の諸地域	・アジア州 ・ヨーロッパ州 ・アフリカ州 ・アフリカ州 ・北アメリカ州 ・南アメリカ州	・雨温図や景観写真から人々の生活の特色を適切に読み取り、理解している。 ・世界各地で顕在化している地球的課題は地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ・各州の暮らし人々の生活を基に、地域的特色を大観し理解している。 ・世界各地の生活様式の変化について多面的・多角的に考察している。
二 学 期	9		・オセアニア州	
		第1章 歴史へのとびら	・歴史をとらえる見方・考え方	・年代の表し方や時代区分の意味や意義を理解している。
	10	第2章 古代までの日本	・世界の古代文明と宗教のおこり ・日本列島の誕生と大陸の交流 ・古代国家の歩みと東アジア世界	・日本列島における人々の生活の変化、古代国家の形成について理解している。 ・古代文明の特徴や宗教のおこり、日本列島における人々の生活の変化について多面的・多角的に考察し表現している。
	11	第3章 中世の日本	・武士の政権の成立 ・ユーラシアの動きと武士の政治の展開	・世界の古代文明や宗教のおこりへの関心を高め、古代までの日本の大きな流れに関する課題を意欲的に追究している。 ・武士社会の成立と発展、諸産業の発展と民衆の成長、文化の特色、東アジアとの交流を理解している。 ・また、それらを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・東アジア世界との交流を背景に戦国大名の登場までの武士社会の展開を様々な資料を活用し、表現している。 ・モンゴル襲来、日明貿易、琉球の国際的役割に関する課題を意欲的に追究している。
三 学 期	1			・ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣の統一事業と対外関係武将や豪商の生活文化の展開を基に近代社会の基礎がつくられたことを理解している。
	2	第4章 近世の日本	・ヨーロッパ人との出会いと全国統一	・交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発展、社会の変化に着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。
	3			・近世の日本についてよりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

学習のすすめかた(第1学年 数学科)

☆数学の学習でめざすこと

- 数学を身につけること[「基礎・基本」を習得し、「創造性」を養う。]
式の計算や数量関係の法則、図形の性質を理解し、事象を多面的・多角的に見る力や論理的に考える力を養う。
- 数学を役立てること[数学の「よさ」や「はたらき」を実感する。]
学習した内容を用いて、身の回りの事象に対して、役立てる力を養う。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識・技能	・正の数と負の数、文字の式、方程式、変化と対応、図形に関する基本的な用語や性質、公式を理解している。 ・正の数と負の数の四則計算、文字式の計算、方程式の解を求めることができる。 ・方程式やグラフ、図形の性質などを用いて、数学的に表現し適切に処理することができる。	・ノートや課題 ・計算練習などの演習の様子 ・定期試験、小テスト
②思考・判断・表現	・正の数と負の数、文字の式、方程式、図形の性質などを用いて、事象の中から数学的な関係や法則を見つけ、論理的に考察することができる。	・授業の発言内容 ・ノートや課題などの記述等 ・定期試験、小テスト
③主体的に学習に取り組む態度	・数学的な事象に関心をもって調べることができる。 ・文字や文字の式、方程式のよさ、変化や対応についての見方や考え方を用い、進んで問題を解決していくことができる。	・学習活動への取り組み状況 ・ノートや「ふり返し」などの記述内容

☆学習を進めるにあたって

使用教材	持 ち 物
教科書 未来へ広がる数学Ⅰ(啓林館) 副教材 ワークブック 確認プリント	・教科書 ・ノート ・ファイル ・ワークブック ・図形セット (直定規・三角定規・コンパス・分度器)
学習の進め方	《学校では》 ①50分(45分)の授業が有意義なものとなるように、積極的な姿勢でのぞもう。 ※教室は間違ってもいいところである意識を持とう。 ②わからないところは、質問などで、必ず解決しておこう。 ※間違いやわからない問題をそのままにしておかないようにしましょう。 ③問題を解けたときの喜びを感じよう。 《家庭では》 ①授業の前日までに教科書に目を通し、授業の内容を確認しよう。 ②教科書、ノートを参考にし、その日に学習したことを確認しよう。 ③ワークブックなど、問題練習をしよう。わからなかった問題や、間違った問題は、必ずわかるようにしましょう。 教科書やノートに戻って、確認してもわからない時は質問しよう。 《定期試験では》 ①2週間前に試験範囲の発表が行われると同時に学習計画を立て、継続的に学習に取り組む習慣を身につけよう。 ②日常からの復習を活かして、試験前には間違いやすい問題等に取り組み、確実性を身につけよう。 また、応用問題にも取り組もう。
学習上の注意	① 授業中の板書を写すと同時にポイントとなることはノートに書き留める。 ② ノートは教科書以上に見やすくする。(色ペン等を利用して) ③ 間違えた問題は答えだけでなく、途中の思考過程もわかるように書く。 ④ 「話を聞くととき」と「問題を解いて友人と相談するとき」のけじめをつけて授業にのぞむ。 ⑤ 提出物(ワークブック、ノート)の提出期限(基準)は守る。 ⑥ 時間があれば積極的にワークブックや章末問題に取り組む。

☆年間計画

時期		単元名	おもな学習内容	評価観点
一学期	4	オリエンテーション		
	5	1章 正の数・負の数 1節 正の数・負の数	・0より小さい数 ・正の数・負の数で量を表す ・絶対値と数の大小	・正の数・負の数を用いて、反対の性質をもつ量や、ある基準を決めたときの量を表すことができる。 ・基準となる数より、ある数だけ大きい数や小さい数を求める方法を考察し表現することができる。
	6	2節 正の数・負の数の計算	・正の数・負の数の加法、減法 ・正の数・負の数の乗法、除法 ・いろいろな計算 ・数の世界のひろがり ・正の数、負の数の利用	・正の数と負の数の四則が混じった計算の方法について考察し表現することができる。 ・数の範囲を拡張し、正の数・負の数の加法、減法、乗法、除法の意味や計算の方法を考えようとする。 ・正の数・負の数について学んだことを生活や学習にいかそうとする。
	7	2章 文字の式 1節 文字を使った式 2節 文字式の計算	・数量を文字で表すこと ・文字式の表し方 ・式の値 ・文字式の加法、減法 ・文字式と数の乗法、除法 ・関係を表す式	・数量を文字式で表すことができる。 ・簡単な一次式の加法と減法の計算をすることができる。 ・一次式と数の乗法、除法の計算をすることができる。 ・数量を文字式でどのように表すかや、式が何を意味しているかについて、考察して表現することができる。 ・文字式について学んだことを生活や学習にいかそうとする。
二学期	9	3章 方程式 1節 方程式	・方程式とその解 ・方程式の解き方	・方程式を解く手順を理解している。 ・簡単な方程式を解くことができる。
	10	2節 方程式の利用	・比と比例式 ・方程式の利用 ・比例式の利用	・事象の中の数量やその関係に着目して比例式をつくり、その比例式を解くことができる。 ・求めた解や解決の方法をふり返って、それらが適切であるかどうかを考察し表現することができる。 ・方程式や比例式について学んだことを生活や学習にいかそうとする。
	11	4章 変化と対応 1節 関数 2節 比例 3節 反比例	・関数 ・比例の式 ・座標 ・比例のグラフ ・反比例の式 ・反比例のグラフ	・比例や反比例の関係を、表・式・グラフに表すことができる。 ・小学校で学習した座標を、負の数まで拡張して考えることができる。 ・具体的な事象の中にある2つの数量の関係を、変化や対応の様子に着目して調べ、反比例の関係として捉えられる2つの数量を見いだすことができる。 ・比例や反比例について学んだことを生活や学習にいかそうとする。
	12	4節 比例、反比例の利用 5章 平面図形 1節 直線と図形 2節 移動と作図 3節 円とおうぎ形	・比例、反比例の利用 ・直線と図形 ・図形の移動 ・基本の作図 ・図形の移動と基本の作図の利用 ・円とおうぎ形の性質 ・円とおうぎ形の計量	・平面における2直線の位置関係を見だし、表現することができる。 ・具体的な場面で、図形の移動と基本的な作図ができる。 ・図形の移動と基本的な作図を関連づけて、具体的な場面で活用することができる。 ・基本的な作図や図形の移動について学んだことを生活や学習にいかそうとする。 ・おうぎ形の中心角と、弧の長さや面積との関係を見いだすことができる。
三学期	1	6章 空間図形 1節 立体と空間図形	・いろいろな立体 ・空間内の平面と直線 ・立体の構成	・角錐、円錐や多面体の意味を理解している。 ・空間における直線や平面の位置関係を理解している。
	2	2節 立体の体積と表面積	・立体の体積 ・立体の表面積	・立体の性質を見取図、展開図、投影図を関連づけて、それらの特徴について考察し、表現することができる。 ・平面図形や線分の移動によって構成される立体について考えようとしている。 ・柱体、錐体、球の表面積の求め方について考えようとする。
	3	7章 データの活用 1節 ヒストグラムと相対度数 2節 データにもとづく確率	・データを活用して問題を解決しよう ・整理されたデータから読みとろう ・相対度数と確率	・ヒストグラムや相対度数、範囲、累積度数などの必要性和意味を理解している。 ・整理されたデータを批判的に考察し判断することができる。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率を生活や学習にいかそうとする。

学習のすすめかた(第1学年 理科)

☆理科の学習でめざすこと

理科の学習では、生活に必要な知識や実験器具の使い方を覚えながら、科学的なものの見方や考え方を身につけることを目的としています。そして、疑問に感じることを、学級の友人と協力しながら解決していく活動を通して、自然のすばらしさを発見し、自然と人間の関わりについて考えていくこともねらいとしています。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
① 知識・技能	自然の中にあふれる生命、いろいろな生物とその共通点、身のまわりの物質、光・音・力による現象、活きている地球に関することらについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	・実験観察レポート ・定期テスト、実技テスト、小テスト ・実験の様子
② 思考・判断・表現	自然の中にあふれる生命、いろいろな生物とその共通点、身のまわりの物質、光・音・力による現象、活きている地球についての観察や実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、特徴や規則性を見いだして表現するとともに、探求の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	・実験観察レポートや課題等の記述、発言内容等 ・定期テスト、小テスト
③ 主体的に学習に取り組む態度	自然の中にあふれる生命、いろいろな生物とその共通点、身のまわりの物質、光・音・力による現象、活きている地球に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	・学習活動への取り組み状況 ・レポート ・ワークシートやノートの記述内容

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書 未来へひろがるサイエンス(啓林館) 副教材 ワーク、プリント、理科便覧	持ち物	教科書 ノート 理科便覧
学習の進め方	《学校では》 ・先生の話や説明をしっかりと聞き、しっかりと考えよう。 ・パソコンやビデオの映像、資料をよく見よう。 ・観察や実験には積極的に参加しよう。 ・自分自身の考えをもとう。(「なぜ」「どうして」と考えよう) ・ノートをきちんとまとめていこう。 《家庭では》 ※ わからない問題は次の日、学校で先生に聞こう。 ・ノートの整理をしておこう。プリントを貼ったり説明を書き込んだりしよう。 ・教科書やノートを読んで復習しよう。 ・習ったところまでワークをやり、繰り返し確認しよう。 《定期テストでは》 ・早めに学習計画を立てよう。 ・観察や実験の結果やまとめの確認をしよう。 ・プリントやワークなどの練習問題の見直しをしよう。		
学習上の注意	・理科室へは休み時間中に移動する。 ・チャイムが鳴るまでに授業の準備を終え、着席して待つ。 ・授業で配られたプリントはノートに貼って、見やすいノートづくりをする。 ・実験・観察(準備から片づけまで)には全員で協力して取り組む。 ・提出物の提出期限を守る。		

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
一 学 期	4 自然の中にあふれる生命	・学校周辺の生物の観察を行い、いろいろな生物がさまざまな場所で生活していることを見いだして理解する。生物は共通点や相違点をもとに分類できることを理解する。 ・観察器具の操作、観察記録の仕方などの技能を身につける。 ・生物に対する興味・関心を高める。	①観察と分類の仕方について基本的な概念や原理・法則などを理解し、観察の基本的な技能を身につけている。 ②いろいろな生物について、分類するための観点や基準を見いだし表現している。 ③生物の観察と分類に関する事象に進んで関わり、科学的に探求しようとしている。
	5 いろいろな生物とその共通点 1章 植物の特徴と分類 2章 動物の特徴と分類	・身近な生物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づき共通点や相違点があることを見いだし、植物や動物の体の基本的なつくりを理解する。 ・植物や動物の共通点や相違点に基づき、分類できることを理解する。 ・生物に対する興味・関心を持ち、観察するときどのような点に注目すればよいかを考える力を身につける。	①植物や動物の体の共通点や相違点について基本的な概念や原理・法則などを理解し、観察・実験の基本的な技能を身につけている。 ②観察・実験を通して、いろいろな植物や動物の共通点や相違点を見いだし、分類の観点や基準を見いだして表現している。 ③植物や動物の体の共通点や相違点に関する事象に進んで関わり、科学的に探求しようとしている。
	6 身のまわりの物質 1章 いろいろな物質とその性質 2章 いろいろな気体とその性質	・身のまわりの物質の性質を調べる実験を行い、物質には固有の性質と共通の性質があることを見いだし理解する。 ・実験器具の操作などの技能を身につける。 ・実験を通して気体の種類による性質を理解し発生方法や捕集方などの技能を身につける。	①身のまわりの物質、気体の発生と性質、水溶液、状態変化、融点・沸点などについての概念や原理・法則を理解している。実験の基本的な技能を身につけている。 ②見通しをもって実験などを行い、物質の性質やその変化、状態変化における規則性などを見いだし表現している。
二 学 期	9 3章 水溶液の性質 4章 物質のすがたとその変化	・物質が水に溶ける際の水溶液の均一性を、粒子モデルで理解する。 ・水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連づけて理解する。 ・実験を通して、物質は融点や沸点を境に状態が変化することを知り、沸点の違いによって分離することができることと理解する。	③物質のすがた、水溶液、状態変化に関する事物・事象に進んで関わり、科学的に探求しようとしている。
	10 光・音・力による現象 1章 光による現象 2章 音による現象	・光の反射・屈折の実験を行い、光が物質の境界面で反射や屈折するときの規則性や凸レンズを通した物体と像の位置、大きさ、向きを見いだす。 ・音についての実験を行い、音は振動によって生じ、波として伝わること、大きさや高さは音源の振動の仕方に関係することを見いだす。	①日常生活や社会の事象と関連づけながら、光の反射、屈折、凸レンズのはたらき、音の性質、力のはたらきについての基本的な概念や原理を理解している。実験の基本的な技能を身につけている。 ②見通しをもって実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズのはたらき、音の性質、力のはたらきの規則性や関係性を見いだし表現している。
	11 3章 力による現象	・実験を通して、力がはたらくと物体が変形したり運動の様子が変わったりすることを見いだすとともに、力の表し方を理解する。ひとつの物体にはたらく2力が釣り合う条件を見いだし理解する。	③光、音、力のはたらきに関する事物・事象に進んで関わり、科学的に探求しようとしている。
	12 活きている地球 1章 身近な大地 2章 ゆれる大地	・身近な地形などの観察を通して、大地の成り立ちなどを理解する。観察器具の基本的な扱い方を身につける。 ・地震計の記録から地震のゆれの特徴を理解し、ゆれの伝わり方の規則性を見いだす。地震の原因などをプレートの動きと関連づけて理解する。	①地表にみられる事物・現象と関連づけて地震の伝わり方と地球内部のはたらき、火山活動と火成岩、地層の重なりと過去の様子、自然の恵みと自然災害の基本的な概念や原理などについて理解している。観察の基本的な技能を身につけている。
三 学 期	1 3章 火をふく大地 4章 語る大地	・さまざまな火山の活動などについて調べ、その様子はマグマの性質に関係していることを考察する。 ・マグマからできる火成岩の特徴を成因と関連づけて理解する。	②見通しをもって観察・実験などを行い、地震のゆれや伝わり方や地層の重なり方・広がり方の規則性、火山とマグマの性質や地震発生の仕組みの関連性などを見いだし表現している。
	2	・地層の重なり方や広がり方の規則性、構成する岩石をもとに、地層が堆積した時代や当時の環境を推測することを通して、地層の働き方を理解する。	③身近な地形、地震、火山、地層、自然在外などの事象に進んで関わり、科学的に探求しようとしている。
	3	・プレートと火山活動や地震などの関連を総合的に捉え、大地からの恵みや災害について理解する	

学習のすすめかた(第1学年 音楽)

◇音楽の学習でめざすこと

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することをめざす。

◇評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
知識・技能	○音楽表現に必要な「音楽の約束」を理解し、それらを活用することができる。 【歌唱】 ・正しい音程、正しいリズムで独唱、斉唱や合唱をすることができる。 【器楽】 ・正しい運指や奏法で、演奏をすることができる。 【創作】 ・正しいリズムでリズム打ちをしたり、正しい和音進行で旋律を作ったりすることができる。 【鑑賞】 ・楽曲を集中して聴き、楽曲の特徴を捉えることができる。 ・作曲者の生い立ちや、活躍した時代背景を考えながら鑑賞することができる。	○技能・鑑賞ワークシート ○ふり返しワークシート ○小テスト・定期テスト ○実技テスト (歌唱・器楽・創作)
思考・判断・表現	○表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、表現することができる。また、それぞれの曲の背景と音楽とを関連づけて、それらを今の自分の生活と結びつけて考えることができる。 【歌唱・器楽】 ・曲想に合った声色や音色で演奏することができる。 ・音楽用語に気をつけ、曲想をつけて歌ったり演奏したりすることができる。 ・歌詞の内容や楽曲の背景などを捉えて、表現することができる。 【鑑賞】 ・楽曲の特徴を捉え、合唱や合奏などの曲においては、他の声部との関わりを感じながら、鑑賞することができる。 【創作】 ・音素材の特徴、構成上の特徴を考察し、音の選択をしながら、創作活動を行うことができる。	○技能・鑑賞ワークシート ○ふり返しワークシート ○小テスト・定期テスト ○実技テスト (歌唱・器楽)
主体的に学習に取り組む態度	○音を聴くことや奏でることに興味関心をもち、歌唱や器楽演奏などの音楽表現活動に積極的かつ意欲的に取り組むことができる。 ○学習の目的を理解し、題材における自己目標の設定をしっかりと行うことができる。また、毎時間のふり返しを通して、題材に対する自己課題を見つけることができる。	○技能・鑑賞ワークシート ○ふり返しワークシート ○表現活動の様子(観察)

◇学習を進めるにあたって

使用教材	中学生の音楽Ⅰ(教育芸術社) 中学生の器楽(教育芸術社) 鑑賞資料集 技能・鑑賞ワークシート	持ち物	中学生の音楽Ⅰ 中学生の器楽 鑑賞資料集 音楽ファイル・筆記用具
学習の進め方	《学校での取り組み》 ①活動の時間を大切にしよう。そのためには授業に必要な準備物をきちんとそろえておこう。定期的に記名を確認し、プリント類を整理しておこう。 ②どの活動にも説明の時間と練習の時間がある。まずは説明を集中して聞こう。そうすることで、練習がスムーズに進みより良い成果が上げられるので、その時間を大切にしよう。 ③合唱や合奏などのグループ活動は、個人ひとりひとりの練習の積み上げがとても大切になる。個人練習やパート練習では、それぞれの課題を見つけ、それを目標にしながら取り組もう。 ④仲間と共に音楽活動を高めよう。互いの力を出し合ったり、苦手なところを補い合ったりしながら、クラス全体で合唱・合奏を楽しもう。そのために、積極的に活動していこう。 《家庭での取り組み》 ①日々の生活の中に流れている音楽を意識しよう。鳥の鳴き声や川のせせらぎなど、自然のもたらす音にも耳を傾けよう。 ②実技には個人的な訓練の時間が必要になる。学習したことを復習して、次の授業に生かしていこう。また、地域の伝統芸能にも興味を示し、それらを伝承していこう。 《定期テストに向けて》 日々の学習のふり返りを大事にし、覚えたことを確実に自分のものにしていこう。基礎・基本の取り組み(「音楽の約束」を覚えることなど)を、日々の授業で地道に行っていこう。		
学習上の注意	・学習に必要な準備物を、忘れずそろえよう。 ・音楽表現に必要な「音楽の約束」を、しっかりと学習しよう。 ・実技においては、同じ曲を何度も繰り返し練習しよう。		

◇年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
一学期	4 「校歌」	・「校歌」の歌詞、楽曲について学習する。	・「校歌」の作られた背景を考えるとともに、「校歌」の音程、リズムを習得し、歌うことができる。【全観点】
	5 「We'll Find The Way」	・旋律の重なり方に注目し、互いの声を聴き合って歌う	・正しい姿勢、正しい音程・リズムを習得し、大きな声で歌うことができる。【知識・技能・態度】
	6 心の歌 「結」	・歌詞に込められた思いを生かし、発声の仕方に気を付けながら、表現を工夫して歌う。 ・拍の流れを理解し、フレーズに沿って歌う。	・歌うときの姿勢や呼吸法を体得し、響きのある声で歌うことができる。 【態度・表現】
二期	変声期と譜表について	・変声期と音域について、またその記譜方法について学習する。	・階名(ドレミ...)について理解し、ト音譜表とヘ音譜表の読譜ができる。【知識・技能】
	リズムアンサンブル	・様々なリズムについて知り、その組み合わせを学習する。	・様々なリズム形態を理解し、拍に合わせてリズム打ちをすることができる。 【知識・技能・思考・判断】

	7	鑑賞「春」	・弦楽器の種類とそれぞれの特徴について学習する。 ・楽曲構成、作曲者とその時代背景について知る。	・曲の流れの対比や弦楽合奏の特徴を感じながら鑑賞することができる。【知識・態度】 ・楽曲の構成について理解することができる。また、楽曲の表現している情景を創造し、その作品の良さを豊かに感じ取ることができる【思考・判断・表現】
	9 10 11	合唱コンクールに向けた取り組み 鑑賞「魔王」	・各パートの音程やリズムなど曲の構成について知る。 ・各パートでの練習の仕方を学習する。 ・クラスの「和」を育む合唱活動を行う。 ・表現の工夫をしながらグループ練習や全体練習を進める。 ・外国の歌曲について学習する。 ・作曲者とその時代背景について知る。	・正しい音程やリズムで各パートの旋律を覚えることができる。【知識・技能】 ・歌詞の内容に合った速さや、強弱の変化など、表現の工夫しながら歌うことができる。【思考・判断・表現】 ・楽曲に込められている作詞・作曲者の思いを想像し、その曲にふさわしい歌い方を考えることができる。【思考・判断・表現】 ・詩の内容を理解して、場面の様子を想像しながら鑑賞することができる。【思考・判断・表現】
三 学 期	1 2 3	鑑賞 箏曲「六段の調」 尺八「巢鶴鈴慕」 卒業式歌「友～旅立ちの時～」	・日本の伝統楽器の音色の美しさや独特な演奏から伝統音楽の特徴を感じる。 ・「友～旅立ちの時～」の楽曲について理解し、各パート活動やグループ活動で練習をする。	・日本の伝統音楽に親しみ、その良さを味わうことができる。 ・卒業生に向けてのメッセージソングとして、気持ちを込めて歌おうとしている。

【教科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方】

音楽を形づくっている要素とその働き

→自己のイメージや感情、生活と社会、伝統や文化などに関連づける。

→学習活動の繰り返しによって目標の実現を図る。

学習のすすめかた（第1学年 美術）

☆美術の学習でめざすこと

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
① 知識・技能	・表現するために必要なものの見方や技法、表現の意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を知り、身につけている。	・作品評価 ・授業記録 ・制作過程、観察 ・ワークシート ・定期テスト
② 思考・判断・表現	・自然や身近にあるものを新鮮な見方や感覚で観察し、形や色彩の特徴などから、想像力を働かせてテーマ（主題）について表現することができる。	・作品評価 ・授業記録 ・制作過程、観察 ・ワークシート ・定期テスト
③ 主体的に学習に取り組む態度	・創造活動の喜びを味わい、楽しく身近なものを見つめ感じ取ったことなどを基に構想を練ったり、意図に応じて表したりする表現の活動に粘り強く取り組んでいる。	・作品評価 ・授業記録 ・ワークシート ・制作過程・振り返り

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書（光村図書） 資料集、スケッチブック、レタリング辞典 （彫刻、絵画、デザイン、工芸、各分野の各教材） その他	持ち物	教科書、資料集 スケッチブック 絵の具セット 筆記用具H,HB,2B,4B
学習の進め方	《学校では》 授業の流れ ① 制作に集中できるように、授業に必要な準備物をきちんとそろえておこう。 ② 課題を知り、説明を集中して聞こう。そして、目標をもって制作をしよう。 ③ 整理をして、清掃を含め、後片付けをしよう。 《家庭では》 ① 美術館や博物館などで本物の作品に触れる機会を増やそう。 ② 自然の美しさや人工物の美しさに出会ったら、できればスケッチなどして感動を味わおう。 ③ 授業で作った作品を飾り、学習した配色やレタリングを活用して身のまわりを楽しいものにしていきましょう。 《定期テストでは》 ・授業で学習した内容を確認しよう。		
学習上の注意	・学習内容に必要な用具、道具、材料など忘れ物をしないようにする。 ・その日の課題をしっかりと自覚し、集中して真剣に取り組む。 ・今日の制作を振り返り後片付けと清掃をする。 ・テーマ（主題）を掘り下げ問題意識をもって制作する。 ・基本事項をしっかりと行う。 ・完成することをあきらめずに、最後まで完成させる。 ・様々なことに興味や関心を持ち、それらのことを基にして制作に挑戦する意欲を持つ。また、持続させる。		

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
一学期	オリエンテーション 絵画 自画像の制作1 素描(デッサン)	・授業の受け方や評価方法について知る。 ・自画像を描く①目的・②目標・③人間の特徴について理解する。	・美術の表現を積極的に行おうとする気持ちを持てる。 ・美術を学ぶ目的を十分に理解している。
	4 デザイン基礎1	・鉛筆でグラデーションを表現する。 ・陰影や質感などの表現を知る。	・自画像を描く目的、方法、表現について理解を深めることができる。
	鑑賞「巨匠の素描1」	レオナルド・ダ・ビンチの素描を鑑賞する。	・均等にトーン(調子)を変化させることができる。各マス塗りむらなく塗ることができる。
	鑑賞「友人の素描1」	・友人の完成した作品を相互鑑賞する。	・作品の良さや本質について十分に鑑賞することができる。
	5 鑑賞「友人の素描2」	④ 形の取り方の実習 ⑤ 立体感の表現 ⑥ 質感、量感、遠近感の表現 ⑦ 生命感、人間的な表現へ挑戦する。自分自身の存在に迫る表現への挑戦。	・自身の作品と取り組みについて、ワークシートを使って多角的に的確な検証をしようとしている。 ・全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し心豊かに表現する構想を練っている。
	6 デザイン基礎2	絵の具によるモノクログラデーションの制作。 地塗り1 キャンバスへ茶色を塗る。 地塗り2 キャンバスへ灰色を塗る。 キャンバスへの鉛筆によるデッサン	・微妙な明暗の変化についてしっかりととらえ、表現することができる。 ・描く対象である自分自身の顔をしっかりと見つめることができる。
	鑑賞「素描2」	アルブレヒト・デューラーのデッサンを鑑賞する。	・本質を見極める力(洞察力)を深めることができる。 ・均等に色調を変化させることができる。塗りむらなく塗ることができる。 ・キャンバスに茶色を塗りむらなく均等に塗ることができる。 ・キャンバスに灰色を塗りむらなく均等に塗ることができる。
	7 絵画 自画像の制作2	地塗り1 キャンバスへの茶色の地塗り 地塗り2 キャンバスへの灰色の地塗り 下書き キャンバスへ鉛筆で下書きをする	・対象である自分の顔をしっかりと観察することができる。 ・作品の良さや美しさだけでなく、作者の意図や表現の奥深さを読み取り鑑賞し、時代を超えた表現の共通点や違いを考え、美意識を高め、美術文化への見方や感じ方を深めている。

二 学 期	9	モノクロの絵の具による作品制作 (油彩的表現1)	モノクロ絵の具による自画像の着色 白色、黒色、灰色の絵の具によるデッサン。 白色によって光の表現をする 灰色、黒色等を使って影の表現をする	明暗の変化を絵の具の白色、灰色、 黒色のトーンに置き換えることができる。 ・形や色、質感など身近なものを全 体のイメージで捉えることを理 解している。
	10	鑑賞会 鑑賞 絵画1 巨匠の油彩画 (自画像) 友人の作品鑑賞	点描等を使って質感や細部の表現を する。 ・自分の作品についてふりかえる。 ・自画像(油彩)の鑑賞 ・友人の完成した作品を鑑賞する。	主題である「生きている、自分自身、 人間」に迫る表現を忘れることなく 制作に取り組むことができる。 内面的な表現に至れるような工夫 がある。 ・自身の作品と取り組みについて、ワー クシートを使って多角的に的確な検 証をしようとしている。
	11	デザイン基礎2	3原色による色相環の制作。 3原色の混色から美しい色相環を制 作する。	・三原色の混色から色相環を制作す ることで、色が見る人に与える効 果について理解している。
	12	絵画 自画像の制作3 (油彩的表現2)	明暗の変化を生かしながら実際の色 を塗っていく。色づくりでは、混色、 重色、配色の工夫に挑戦する。 ・自分の作品についてふりかえる。 ・友人の完成した作品を鑑賞する	・作品の魅力や美しさを鑑賞すると ともに、人物の存在感や本質につ いて関心を持つことができる。
		額縁のデザインの制 作	額縁のエスキースを色鉛筆で制作す る。	具体的なイメージを具現化する。
三 学 期	1 2 3	額縁の制作 鑑賞会	・額縁の地塗り ・額縁への下書き ・考えたデザインを絵具で着彩して いく。 ・ニス塗りで完成させる。	・意図に応じた表現方法を工夫し、 制作の順序などを総合的に考え ながら、見通しを持って創造的に 表している。 ・主体的に多くの人にメッセージが 伝わるように工夫してデザイン する表現の学習活動に取り組も うとしている。

学習のすすめかた(第1学年 保健体育)

☆保健体育科の目標

各種の運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに生活を明るく健全にする態度を育てる。
 運動における競争や協同の経験を通して、自ら進んで学んでいく態度や規則を守り、互いに協力して取り組む態度を育てる。
 健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。
 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気づき、体力の向上を図り、運動技能を高め、たくましい心身を育てる。
 健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識・技能	運動の特性や発達段階に応じた技能を身につけている。 応急処置などの実習について、基礎的な技能を身につけている。 (実施学年) 運動の特性や技術、ルールなどについて、その知識を身につけている。 保健分野の課題解決に役立つ基礎的な事項を理解し、必要な知識を身につけている。	実技・実習 発表、学習カード 定期テストなど
②思考・判断・表現	運動の特性に応じて、自己や集団の能力に適した課題を見出すことができる。 練習方法の工夫や作戦の工夫、ゲーム分析など課題に対して自らの考えを持ち、レポートや学習カードなどに表すことができる。 心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考えたり、資料を活用したりすることができる。	発表、学習カードなど
③主体的に学習に取り組む態度	運動や健康・安全についての学習に積極的に取り組もうとしている。 助言や補助などをして仲間の学習や活動を援助したり、公正、協力、責任などの態度を持って活動しようとしている。 話し合いや作戦会議に積極的に参加しようとしている。 施設や道具の取り扱いに配慮し、安全で効率的な活動をしようとしている。	授業への取り組み方や様子 発表や話し合い活動 提出物の状況など

☆学習をすすめるにあたって

使用教材	教科書:「中学保健体育(保健)」 副教材:「中学体育実技(図解実技資料集)」 その他:「学習カード」	持ち物	ジャージ・半そで体操服・ハーフパンツ・体育館シューズ・体育授業用ファイル
学習の進め方	《学校では》 ○自ら進んで目標に向かって、一生懸命に取り組もう。 ○スポーツのいろいろな楽しさを学習しよう。 ○仲間と協力して活動し、ルールとマナーを守ろう。 《家庭では》 ○スポーツ観戦をするなどして、スポーツに親しもう。 ○週3回程度を目安として、ランニングやトレーニングを30分程度行おう。 ○規則正しい生活をして、自分の健康管理をしよう。 ○体育実技(図解資料集)など技術面や体力面のポイントが掲載されているので研究しまとめてみよう。 《定期テストでは》 ○授業で学んだことを基にして、体育実技(図解資料集)や新中学保健体育、学習カードを使って確認しておこう。		
学習上の注意	<授業について> ・チャイムが鳴り終わるまでに活動場所に移動する。 ・各自で必要な部分は念入りにストレッチングをする。 ・授業で使用する用具やコートの準備・片づけは全員で協力して行うようにする。 ・説明をしっかりと聞き、授業の流れやポイントを一人ひとりが把握する。 ・板書を書き込みプリントにまとめたり学習したことを学習カードにまとめたりする。 ・一人ひとりが安全に十分配慮し、服装など心がけるようにする。 ・ケガと体調が優れない場合は、事前に必ず申し出るようにする。		

☆年間計画(1年生)男女共修授業と男女別授業を併用するため種目実施時期が前後することがあります。

時期	単 元 名	おもな学習内容	評 価 観 点
一 学 期	4 体づくり運動 (含体カテスト)	○体ほぐしの運動 ○体力を高める運動 ○動きを高める運動	・体力を高める運動を身につけることができる。 ・合理的に体力を高めることができる。 ・新体力テスト
	5 陸上競技 短距離・リレー	○クラウチングスタート ○バトンパス ○テークオーバーゾーンの 使い方	・クラウチングスタートから、中間疾走まで正しいフォーム で行うことができる。 ・テークオーバーゾーン内で効率よくバトンをパスするこ とができる。
	6 マット運動	○基本的な回転わざ ○倒立わざ ○やや高度な回転わざ	・自己の技能レベルに合った技や連続技ができる。 ・各自の能力に応じた技を選び、効果的に練習場を使っ たり、合理的に技の組合せを工夫して練習したりする ことができる。
	7		
二 学 期	9 ニュースポーツ (アルティメット)	○スローイング ○キャッチング ○ゲームについて	・個人的技能について、正しいフォームで行うことができ る。 ・ルールや集団的スキルを理解して、試合を進めることが できる。
	10		
	11 武道	○礼儀作法 ○相手の動きに応じた基本 動作	・武道に積極的に取り組むとともに、伝統的な作法の仕 方を守ることができる。 ・技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本と なる技ができる。
	12 持久走	○走法の理解	・自分の能力に合った正しいフォームを見つけ、安定した ペースで長く走ることができる。
三 学 期	1 サッカー	○インサイドキック ○ミニゲーム ○1対1	・個人的技能について、正しいフォームで蹴ることができる。 ・いまもっているスキルを発揮してゲームを行うことができ る。
	2 バasketボール	○ランニングシュート ○1対1の攻防 ○ゲーム	・個人的技能について、正しいフォームで行うことができ る。 ・いまもっているスキルを発揮してゲームを行うことができ る。
	3		
通 年	心身の発達と心 の健康 健康な生活と病 気の予防① 体育理論	○身体機能の発達 ○生殖にかかわる機能の 成熟 ○運動、食生活、休養と 健 康 ○運動やスポーツの楽しみ 方	・年齢に伴う身体の各器官の発達の傾向や性差、個人 差などがあることを理解することができる。 ・健康な生活と疾病の予防について理解することができる。 ・運動やスポーツの必要性や、見る行う支えるなどの多 様なかわりによって、運動やスポーツの楽しみ方を 理解することができる。

学習のすすめかた(第1学年技術)

☆技術の学習でめざすこと

- ・材料と加工の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての基礎的な知識を理解する。
- ・生活や社会で利用されている技能を身に付け、材料と加工の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- ・生活や社会の中から材料と加工の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に材料と加工の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につける。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
① 知識・技術	・材料と加工の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組みを理解している。 ・材料と加工の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。 ・製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができる技能を身につけている。	・定期テスト ・技能テスト ・製作品 ・行動観察
② 思考・判断・表現	・材料と加工の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身につけている。 ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて材料と加工の技術を評価し、適切な選択と管理・運用、改良、応用する力を身につけている。	・定期テスト ・技能テスト ・製作品 ・製作図 ・行動観察
③ 主体的に学習に取り組む態度	・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組むことができる。 ・振り返って改善したりして、材料と加工の技術を工夫し創造しようとする。	・定期テスト ・ノート ・行動観察

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書 技術家庭科(教育図書) 木材キット	持ち物	教科書、ノート、 ハンドノート、 ファイル
学習の進め方	《学校では》 ・しっかりと問題意識を持って、授業に取り組むようにしよう。 ・説明などをしっかりと聞き、実習などに真剣に取り組むようにしよう。 《家庭では》 ・環境問題等に興味を持って、新聞やテレビなどをみるようにしよう。 ・問題意識を持って、パソコンなどで木材のことなどを意欲的に調べるようにしよう。 《定期テストでは》 ・授業で学習した基礎的なことを確認しよう。		
学習上の注意	・授業への遅刻や忘れものをしないようにする。 ・先生の指示をよく聞き、自分勝手な行動をしないようにする。 ・工具を安全かつ大切に使用し、ケガをしないように注意する。		

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
一学期	4 情報に関する技術	・オリエンテーション ・コンピュータのしくみや基本構成について理解する。 ・コンピュータの起動、終了、データの保存の操作を理解し、操作する。 ・ネットモラルについて理解する。	・情報社会の持っている問題に関心を持ち、考えることができる。 ・コンピュータのしくみ、基本構成について理解している。 ・コンピュータの起動、終了、データの保存が正しくできる ・ネット上でモラルを守り、適切な行動ができる。 ・コンピュータの製作手順を理解し、安全に使用することができる。
	5		
	6 「材料と加工の技術」 木材加工に関する技術	・木材の持っている特徴について理解する。 ・木材の組織について理解する。	・材料としての木材の特徴が理解できる。 ・木材の各部の名称が理解できる。
	7	・作図の書き方について理解する。	・作図の書き方を理解し、正確に作図をすることができる。
二学期	9 「材料と加工の技術」 製作品の製作	・設計の手順と注意点を理解する。 ・自分の製作品を設計する。 ・製作手順を理解する。 ・安全に留意して製作品を製作する。	・作品製作に関心を持ち、意欲的に取り組める。 ・目的にあわせて適切に工具が利用できる。 ・工具の使い方を理解して、安全に適切に工具を使用できる
	10		
	11		
	12		
三学期	1 「材料と加工の技術」 製作品の製作	・製作品の組み立て、仕上げをする。 ・製作品の自己評価をする。	・材料に応じた接合を理解して適切に接合ができる。 ・材料の特性を活かしてきれいに仕上げるができる。
	2		
	3		

学習のすすめかた（第1学年 家庭）

☆家庭の学習でめざすこと

- ・作品の製作、調理実習などの体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。
- ・これからの自分の生活を豊かにする力を身につける。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識・技能	・家族・家庭の基本的な機能について理解を深め生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解している。 ・衣食住に係る技能を身に付けている。	行動観察、発表の様子 作品の完成度 定期試験 実技課題及び試験
②思考・判断・表現	・自身の食生活から課題を見つけ、その解決策を考え、実践を評価、改善し、考察したことをレポートに表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・実習の手順や時間を考慮して、能率の良い作業を工夫することができる。	行動観察・発表の様子 実技課題・作品 レポート 振り返り記入
③主体的に取り組む態度	・自分の食生活や身近な食品に関心を持つことができる。 ・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	行動観察・発表の様子 レポート 実践記録の記述 振り返り記入 授業での準備物・提出物

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書：New技術・家庭 家庭分野 （教育図書）	持ち物	教科書 ファイル ハンドノート 実習で必要な生活用品
学習の進め方	≪学校では≫ ・自分自身の生活や経験を振り返り、課題意識をもって授業にのぞもう。 ・発表等の中から問題点を見つけ出し、皆で解決方法を考えていこう。 ・実習では、計画を立て準備をし、見通しをもって行いましょう。班で協力することも多いので、よく話し合い、実習中は安全に気をつけ自分の役割を果たそう。 ≪家庭では≫ ・家庭での仕事を手伝おう。 ・学習したことを、家庭でも実践し、日常生活でも興味を持って生活しよう。 ≪定期テストでは≫ ・教科書、ノートを復習し専門的な言葉を覚え、その意味や内容を理解しておこう。		
学習上の注意	・身の回りにあるものをよく観察し、新聞、テレビ、インターネットなどから情報を得る。 ・身の回りに起きていることに興味をもって、疑問に思ったことは調べる。記事をスクラップし、気づいたことを書き込む。 ・実習においては、目的と方法を理解し工夫して、取り組む。 ・実習においては、ケガをしないように十分注意する。 ・班員で仕事を分担し、能率よく協力して作業をする。		

☆年間計画

時期		単元名	おもな学習内容	評価観点
一学期	4	家族・家庭や地域とのかわり	・家族の一員としてできることを考える ・家族関係をよりよくする方法を見つける	・家族、家庭の基本的な機能について理解できる。 ・家族関係をよりよくする方法について問題を見いだして課題を設定している。 ・生活の中で食事が果たす役割について理解できる。
	5	健康と食生活	・食事の役割と健康によい食習慣について考える	
	6		・栄養素の種類と働きを知る	・栄養素の種類と働きについて理解できる。
	7	何をどれだけ食べたらいいか	・中学生に必要な栄養を知る ・一日分の献立を作成する	・食品の栄養的特質について関心を持ち一日分の献立を立てることができる。
二学期	9	食品の選択と購入	・生鮮食品や加工食品の違いを知る ・食品の表示を理解する	・食品の品質を見分け、用途に応じて適切に選択することができる。 ・生活に活かし実践しようとしている。
	10	購入した食品を適切に保存しよう	・食品の保存と温度を知る ・食中毒について知る	・食品の安全と衛生に留意した管理について理解できる。
	11	調理の基礎を知ろう	・調理器具の確認 ・包丁の使い方やいろいろな切り方を知る	・食品や調理器具の安全と衛生について理解できる。
	12	実技試験 リンゴの飾り切り	・野菜や果物の切り方を知る ・実習の注意点の確認 ・リンゴをウサギの形に飾り切りにする。	・食品の衛生や調理器具の安全に留意して適切に扱うことができる。 ・廃棄率を求めることができる。
三学期	1	肉料理をしよう 魚料理をしよう	・肉と魚の調理と加熱による変化を理解し、衛生的な取り扱いを知る	・肉の調理上の性質や調理方法について理解している。 ・魚の調理上の性質や調理方法について理解している。
	2	調理実習	・調理実習をする（餃子作り）	・材料や調味料を正しく計量することができる。 ・安全と衛生面に気を付けて手順良く調理をすることができる。
	3	野菜料理をしよう 地域の食文化を知ろう	・野菜の種類と調理上の性質を知る ・地産地消の意義を知る	・野菜の調理上の性質や調理方法について理解している。 ・地域の食文化について理解している。

学習のすすめかた(第1学年 英語)

☆英語の学習でめざすこと

- 自然な速さで英語を聞き、内容を正しく理解する力を身につける。
- 基礎的な内容の英語を読み、内容を正しく理解する力を身につける。
- 身近な事柄や自分の気持ちを、場面に応じて伝える力を身につける。
- 学習した文法事項を適切に用い、自分の伝えたいことが書ける力を身につける。
- 英語の学習を通し、様々な国の文化や習慣、考え方を知り、自国の文化の良さを発見する。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
① 知識・技能	・外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションで活用できる知識や技能を身に着けている。 ・学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	・授業中の態度や活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・単語、文法等授業中の課題 ・定期テスト、小テスト ・リスニング、長文読解等課題 ・パフォーマンステスト
②思考・判断・表現	・具体的で身近な話題について、互いの考えや気持ちなどを適切に伝え合うことができる。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えを話したり書いたりして表現できる。	・授業中の態度や活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・定期テスト ・パフォーマンステスト
③主体的に学習に取り組む態度	・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	・授業中の態度や活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・パフォーマンステスト ・ワーク、ノート、プリント等提出物

☆学習を進めるにあたって

教材	教科書 : NEW HORIZON (東京書籍) 副教材 : ワーク、ノート	持ち物	教科書・ノート・ファイル・ワーク
学習の進め方	《学校では》 ○英語は習った表現をどんどん使おう。間違いを怖れずに積極的に発言しよう。 《家庭では》 ○教科書の英文は何度も音読しよう。1年生の英語は丸覚えするぐらいの気持ちで取り組もう。 ○英語の歌やラジオ、TV、映画等を積極的に視聴し英語に触れる機会を増やそう。 ○英語は、繰り返し学習が大切です。短時間でもいいので必ず毎日復習しよう。習った単語や文は、何度も見たり、言ったり、書いたりして覚えるまで復習しよう。 《定期テストでは》 ○特に試験範囲中の単語や基本文は、何度も繰り返し学習しよう。授業で使ったプリント等も、しっかり見直しておこう。		
学習上の注意	○先生の話や友達の発言は集中して聞き発音練習は大きな声を出すようにする。 ○ペアワークやグループワークに自分から積極的に参加する。 ○声を出して話すことは、外国語の学習にとっても効果が高いと言われるため、教科書の本文の音読や発話は大きな声で行う。		

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
1 学 期	4月	<Unit0> ・小学校で学習した内容の復習 ・アルファベット ・あいさつ・身のまわりの英語	知 小学校で習った英語表現の意味・用法、アルファベットの 前と音や、大文字・小文字について理解し先生の指示を聞き とったりする技能を身につけている。 思 自分のことについて小学校で習った英語表現を用いて、お互 いの考えや気持ちなどを伝えあっている。 態 自分のことについて、お互いに伝えあったり、先生の指示を 聞きとって活動にとりくんだりしている。
	5月	<Unit1> ・自己紹介 (be 動詞、一般動詞、can の文)	知 be 動詞、一般動詞、can を用いた文の形・意味・用法を理 解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。 思 自分のことについて簡単な語句や文を用いて、即興でお互 いに、伝えあったり発表したりしている。 態 自分のことについて、自分の考えや気持ちも含めて、即興で コミュニケーションを行おうとしている。
	6月	<Unit2> ・人や物を紹介する ・人や物について尋ねる ・Who is? What is? ・手段や行動について尋ねる文 とその応答	知 (This, That, He, She)is、疑問詞 what や who、(how What)do you?の文の形・意味・用法を理解しそれを用 いて即興でコミュニケーションを行う技能を身につけている 思 上記の知を使って、即興で尋ねたり答えたりしている。 態 上記の知を使って、即興でコミュニケーションを行おうと している。
	7月	<Unit3> ・When~/Where?と その応答 ・自分のしたいことについて表現す る文【I want to~】 ・How many?とその応答 ・名詞の形・意味・用法につ いて	知 疑問詞 where, when, how many?を用いた文の形や意味用 法を理解している。また、それらを用いたり、したいことや夢についてI want to~を用いたりして、コミュニケーションを行う技能を身につけ ている。 思 上記の疑問詞を使って、即興で尋ねたり答えたりしている。 また、したいことや自分の夢について、即興で伝えあっている。 態 上記の知を使って、即興でコミュニケーションを行おうとしている。
2 学 期	9月	<Unit4> ・命令文 ・What time?とその応答 ・What+名詞?とその応答 ・疑問詞用いた文の形・意味・用法 について	知 命令文、What time, What+名詞?の文の形・意味・用法を理 解し、それを用いてコミュニケーションを行う技能を身につけている。 思 命令文を使い即興で指示や助言をしていたり、疑問詞を使って相 手の情報を即興で尋ねたり答えたりしている。 態 上16 : 使って、即興でコミュニケーションを行おうとしている。
	10月	<Unit5> ・前置詞 ・like[enjoy]doing be good at doing ・過去形 ・自分の好きなことについて、つなが りのある文章を書く	知 前置詞、like, (enjoy)doing, be good at doing、動詞の過去 形を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いてコミュニケー ションを行う技能を身につけている。 思 自分のことについて話すことを整理し、即興で伝えあったり、つながり のある文章で表現したりしている。 態 上記の知を使って、即興でコミュニケーションを行おうとしている。ま た、つながりのある文章で書こうとしている。
		<Unit6> ・3人称単数現在形 ・3人称単数現在形 (疑問・否定) ・人に依頼・許可を求める表現 辞書の使い方	知 3人称単数現在形の文の形・意味・用法を理解し、家族や友人に ついて尋ねたり、書いたりする技能を身につけている。 思 家族や友人について紹介したり、まとまりのある文章を書いたりして いる。また、その場の状況を考えながら、身近な人に許可を求めたり 依頼したり、それに適切に回答したりしている。 態 家族や友人についてスピーチするために、まとまりのある文章を書い たり、そのスピーチについてやり取りしたことを整理して書いたりして いる。 その場の状況を考えながら、身近な人に許可を求めたり依頼したり、 それに適切に回答しようとしていたりしている。

3 学 期	11 月	<Unit7> ・Let's Talk2 ・Let's Listen1 ・Grammar for Communication 5	・人称代名詞(目的格) ・Which~,A or B? ・Whose~?とその応答 ・人称代名詞 ・What's wrong?とその応答	知 人やものを表す代名詞、疑問詞 which, whose を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて伝える技能を身につけている。体調について尋ねたり説明したりする表現を用いて、伝える技能を身につけている。 思 自分と相手以外の人について話したり、どちらなのか、だれのものか尋ねたり答えたりしている。自分の体調を伝えたり、相手に声をかけたり、応答したりしている。 態 自分と相手以外の人について話したり、どちらなのか、だれのものか尋ねたり答えたりしようとしている。自分の体調を伝えたり、相手に声をかけたり、応答したりしようとしている。
	12 月	<Unit8> ・Let's Write1 ・Grammar for Communication 6	・現在進行形 ・現在進行形(疑問・否定) ・感嘆文 What~!/How~! ・グリーティングカードを書く	知 現在進行形の文、感嘆文の形・意味・用法を理解し、尋ねたり答えたりする技能を身につけている。また、グリーティングカードの基本的な構成や表現を理解し、カードを書く技能を身につけている。 思 現在の動作について尋ねたり答えたり、感動や驚きの気持ちを聞き取ったり、読み取ったりしている。 態 現在の動作について、尋ねたり答えたりしようとしている。カードを送る相手のことを考えてお礼のカードを書こうとしている。
	1 月	<Unit9> ・Let's Talk ・Let's Listen2 ・Stage Activity2	・不定詞(名詞的用法) ・不定詞(名詞的用法)【疑問・否定】 ・look+形容詞 ・道案内での会話表現	知 不定詞(名詞的用法)を用いた文、look+形容詞の文、道案内に関する表現の文の形・意味・用法を理解し、それを用いて尋ねたり答えたりする技能を身につけている。 思 行きたい国やそこでしたいことについて、尋ねたり答えたりしている。道案内に関する表現を使って、やり取りをしている。 態 行きたい国やそこでしたいことについて、お互いの考えを尋ねたり答えたりしようとしている。また、道案内のやり取りをしようとしている。
	2 月	<Unit10> ・Let's read 1 ・Small Talk2 ・Let's Write2	・一般動詞の過去形(規則動詞) ・一般動詞の過去形(不規則) ・一般動詞の過去形(疑問・否定)	知 過去のできごとについて過去形を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて過去にしたことや過去のできごとについて書いたり伝えたりする技能を身につけている。また、まとまりのある文章の読み方を理解し、内容を読み取る技能を身につけている。 思 自分がしたことについて書いたり伝えたりしている。また、まとまりのある文章の概要を読み取っている。 態 自分のしたことや過去のできごとについて、説明しようしたり、伝え合おうたりしている。また、まとまりのある文章の概要を読み取ろうとしている。
	3 月	<Unit11> ・Let's Talk4 ・Let's Listen3 ・Grammar for Communication 7 ・Stage Activity3	・be 動詞の過去形 ・There is/are~. ・過去進行形 ・レストランでの注文の仕方	知 be 動詞の過去形、There is/are~, 過去進行形の文の形・意味・用法を理解し、それを用いて尋ねたり、答えたりする技能を身につけている。また、レストランでの注文をしたり答えたりする表現の意味を理解し、状況に応じて食事の場面の対話をする技能を身につけている。 思 自分の町について説明している。また、自分が注文したいことを伝えたり、質問に的確に答えたりしている。 態 自分の町について説明しようとしている。また、自分が注文したいものを伝えたり、質問に的確に答えたりしようとしている。
		・Learning Literature in English ・Let's Read2	・動詞の過去形 ・過去進行形	知 物語の文章構成を理解し、物語のあらすじを聞き取ったり読み取ったりする技能を身につけている。 思 まとまりのある文章から成る物語を読んでいる。 態 まとまりのある文章から成る物語を読もうとしている。

特別の教科道徳について

◎「道徳」とは、

自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが道徳科の目標です。道徳性とは、内面的な資質で、心情・判断力・実践意欲のことです。

- ・ 自分自身に関すること
- ・ 人との関わりに関すること
- ・ 集団や社会との関わりに関すること
- ・ 生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

に示された価値観を育てます。

道徳で考えることの答えは1つではありません。自分の価値観と周りの価値観が一緒になることが目的ではなく、自分の考えを大切にし、周りの考えを受け入れ、それを踏まえてもう一度自分の価値観をつくっていくことが必要となってきます。

◎具体的には次の方法で道徳性を養います。

自己を見つめる

様々な道徳的価値について、自分との関わりも含めて理解していきます。自分自身が、人間としてよりよく生きていく上で、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題に気づき、自己や社会の未来に夢や希望が持てるようにすることも大切にします。

物事を広い視野で、さまざまな角度から考える

グローバル化が進んでいるので、様々な文化や価値観を背景とする人達と、ともに尊重しあいながら生きることが必要になっています。また、科学技術の発達などで、社会が変化をする中、様々な状況に対応する力も必要となってきます。これらの背景を踏まえて、人としての生き方や社会の在り方について多面的・多角的に考えていきます。

人間としての生き方についての考えを深める

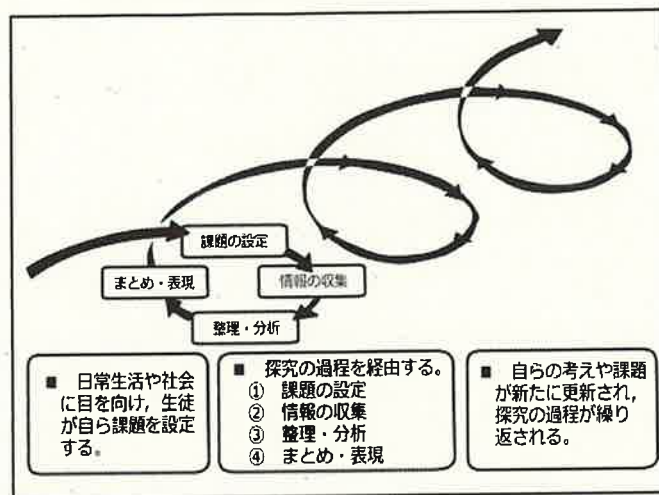
他者や社会、周囲の世界の中で影響を受けつつ、自分を深く見つめ、あるべき自分の姿を描きながら生きていかなければなりません。そのため、自己のことを深く見つめて考えを深めていきます。

総合的な学習の時間について

◎「総合的な学習の時間」とは、

自分たちで課題を見つけ、調べたことや学習したことを発表しながら、自分の考えや思いを伝えていく学習です。自分を見つめ、学習を進めていくことによって、なかまと協力して、社会生活を送っていく力、問題解決の力を養い、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育てていくことをめざしていきます。

探究的な学習における生徒の学習の姿



◎具体的には次のような力を養います。

探究する力 《なかまや自分を見つめようとする力》

課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解したり、目標を達成させる喜びを学んだりします。

表現する力 《自分の思いを伝えようとする力》

実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することを学びます。

行動する力 《課題をみつけ、解決に向け具体的な行動ができる力》

探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う活動を通して、自分の課題をみつけ、その課題の解決に向けて何をしなければならないかを考えて行動につなげ、自分の生き方を考えます。

◎3年間の総合的な学習の時間で大切にしたいこと

★出会いの中で夢を育てること

★さまざまな体験から生き方を考えること

★自ら選択する力を伸ばし夢実現のための進路選択をすること

☆各教科の家庭学習の仕方をご紹介します。

日頃取り組んでほしいことを参考にして、家庭学習に取り組みましょう。

国語科

○日常生活の中で、積極的に活字に触れよう。

書籍(本)・新聞・詩集・雑誌・マンガ・辞典・資料集・写真集・パンフレット等を
読もう。

○自分の好きな本や読みたい本を見つけることにワクワクしよう。

読み取る力 up

- ・教科書の文を音読しよう。
- ・5W1H【いつ・どこで・だれ(何)が・だれ(何)を・どのように・どうした】を
考えて読もう。
- ・場面や段落を考えて読もう。

話す力・聞く力 up

- ・いろいろな人と会話をしよう。
- ・日々の出来事や思ったことや感じたことを文章で表現し、伝えよう。
→友達や家族などと話すとき。
- ・会話の時に、聞いた内容について質問してみよう。

書く力 up

- (すてきな文章から学ぶ。)
- ・名文とされる文章や新聞コラムなどを書き写す。100字程度から増やしていく。
(自分の書きたいことから広げる。)
- ・日記を書く。→日々の出来事や思ったことや感じたことを文章で表現しよう。
Ⅰ 行日記から3行日記と書く量を増やしていく。

語彙力 up

- ・クロスワードパズルをする。
- ・漢字や語句を覚える。何度も言って書いて覚える。
- ・わからない言葉(漢字や語句)は、こまめに国語辞典や漢和辞典で調べる。
- ・覚えた言葉は試しに使ってみる。(短文作り・会話など)

社会科

○学校で学習した範囲の教科書を読む。重要語句に赤ペンでラインを引き、覚える。

○意味がわからない語句は自分で調べる。

○授業中に配布した問題プリント等を繰り返す。

○毎日、新聞の一面を読み、テレビのニュースを見るようにして、世の中の動きや出来事に関心
を持つ。

○テレビを見ていて、知らない地名が出てきたら地図帳で調べる。

数学科

- 宿題をする。
- 授業で解いた問題や類題をノートにやってみる。
- ワークなどで、確認をする。
- ※家庭学習で出た悩みや質問は次の日に先生に聞きに行きましょう。

理科

- ワークを使って習ったことを、こまめに復習する（ワークをする曜日を決めると良い）。
- 「教科書の太字の用語を書き出して説明文を書き加える」、「授業内容を自分なりにまとめる」など、工夫してノートをつくる。
- 自然科学についてのテレビ番組を見る（NHKが多いですが、それ以外にも、面白いものがたくさんあります）。
- 特にテスト前には、ワークを何度も繰り返し解く。
- 分からない所は、付箋などをはってチェックし、自分で調べるか先生に質問する。
- 学校でもらうプリントにもしっかり取り組む。答え合わせは、丸付けをする作業ではなく、間違えた問題の解説まで読むところまでする。

音楽科

- いろいろなジャンルの音楽に親しもう
ポップス、ジャズ、クラシックなど、音楽には多くのジャンルがあります。
たくさん聴いて、自分のお気に入りを見つけましょう。
- 音楽に触れる機会をつくろう
音楽に関心を持ち、積極的に演奏会に行ってみましょう。生の音楽鑑賞は、CDやテレビなどとはまた違った良さを味わえることもあります。
- 日常を楽しもう
日常生活は音で溢れています。少し足を止めて心を落ち着かせ、日常の音を楽しむゆとりを持つようにしましょう。

美術科

○身の回りにあるものに関心を持つことから始めよう。(観察しよう。)

身の回りにあるいろいろなものや、出来事に目を向け関心や興味を持ち、見たり、感じたり、体感したりすることから始めよう。(体験すること、経験したこと大切にする。)

○感性を磨くこと。

美しい夕焼けや道端の名もなき花の美しさに心を止めることのできる心のゆとりを持とう。

美しものを美しいと感じられるということを大切にしよう。

○自然・芸術・美術に親しもう。(鑑賞しよう。)

自然・美術・芸術に関心を持ち、美しい花や景色、屋外彫刻や建築に関心を持ち、美術館、博物館、歴史館等へ足を運び、本物の芸術にふれる機会を作ろう。

○メモやスケッチをしよう。(メモ用紙、スケッチ帳を持とう。)記録を残そう。

頭に浮かんだ発想をメモしたり、スケッチに残したり、美しい風景や花をスケッチする習慣を作ろう。

○制作してみよう。

趣味の中に、絵を描いたり、彫刻を作ったり、デザインやイラストを描くことによって、自己表現にチャレンジしていこう。

○調べてみよう。(深める。)

わからないこと、興味を持ったこと、関心のあること、もっと知りたいことについて、とことん調べてみよう。

○根気強く続けよう。

どんなことでも、やり始めたら最後まで完成させよう。「継続は、力なり」です。力をつけるには、何よりも努力を続けていくことです。

身の回りにあるいろいろなものや、出来事に目を向け関心や興味を持ち、見たり、感じたり、体感したりすることから始めよう。(体験すること、経験したこと大切にする。)

保健体育科

○健康に気をつけ、規則正しい生活を送る。

○健康に過ごしていくための基礎体力を身につける。

○様々なメディアなどで運動・スポーツに関する情報をたくさん得る。

技術家庭科

- 朝ごはんやお弁当、夕飯作りの手伝い、取れたボタンを付け直す、ほつれたスカートのスソを直す、洗濯してみる。
- 買い物に行ったときなど、様々な表示や新しい商品などに目を向けてみよう。
- パソコンやインターネットを安全に扱い、生活に活かしてみる。望ましい情報社会のために私たちがとるべき態度を身につけ、適切に情報を活用する。
- 木材加工や電気の技能を活かし、修理してもものを使うなど、資源や環境を考えて大切に使う習慣を身につける。
- 積極的に地域の人や家族、小さい子どもに関わろう。
- 家庭科は生活の中で即実践できる教科です。まずは、やってみよう。できたら、工夫してみよう
- 世の中の新しい技術や開発された機器などに関心を持とう！
新聞を読んだり、ニュースを見たり、自分たちの生活に関わることを知ろう。

英語科

- 教科書の本文を読む。
→音読することで基本的な文の構造や、リスニング力が身につきます。
- 与えられた課題を家庭で取り組み、提出期限を守る。
- 単語テストや小テスト、定期テストの振り返りをする。間違えたところを繰り返し学習する。
- 単語を正確に覚える。→何度も書いて覚える。
- 音読の仕方(英語を見て読む、日本語を見て英語にして読む)
- 単語を書くときは声に出して単語を何度も書く。



「亀山っ子」市民宣言

1. 「おはよう」「ありがとう」のいえる子
2. きまりや交通ルールを守る子
3. 運動や読書に親しむ子
4. 力を合わせて仕事をする子
5. 人やものを大切にする子
6. 未来に夢を持ち続ける子

亀山市・亀山市教育委員会
亀山市青少年育成市民会議